

TR-1026

RCSS Phase1 Stage 3  
Presence

RCSS Phase1 Stage 3 Presence

第 1.1 版

2010 年 4 月 16 日制定

社団法人

情報通信技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

本書は、(社) 情報通信技術委員会が著作権を保有しています。  
内容の一部又は全部を (社) 情報通信技術委員会の許諾を得ることなく複製、転載、  
改変、転用及びネットワーク上での送信、配布を行うことを禁止します。

## 目 次

1.	スコープ (Scope).....	4
2.	ファレンス (References).....	4
3.	用語及び略語定義 (Terms and acronyms).....	4
4.	インタフェース仕様.....	5
4.1.	アドレス指定.....	5
4.2.	イベント・パッケージ.....	5
4.3.	Presenceデータ・モデル.....	5
4.3.1.	概要.....	5
4.3.2.	Person.....	5
4.3.3.	サービス.....	7
5.	サービス動作.....	8
5.1.	対称的認可に関する動作.....	9
5.1.1.	Presentityが新しいユーザを追加.....	9
5.1.2.	既存ユーザの削除.....	9
5.1.3.	IMSから削除されたユーザ.....	9
5.1.4.	その他 (参考).....	10
6.	代表的なユースケース (参考).....	10
6.1.	Presentity情報用のSubscribe.....	10
6.2.	Presence listに新たにpresentityを追加 (受け入れ).....	10
6.3.	Presence listに新たにpresentityを追加 (拒否).....	11
6.4.	Presence listに新たにpresentityを追加 (認可タイムアウト).....	11
6.5.	既存のpresence listからpresentityを削除.....	12
7.	その他 (Others).....	13

<参考>

1. 英文記述の適用レベル

本技術レポートは和文表記のため該当しない。

2. 国際勧告等との関連

GSMA RCS, Technical Realization Release 1, 15th December 2008 を主たる仕様として参照している。

3. 上記国際勧告等に対する追加項目等

特になし

4. 上記国際勧告等に対する変更事項

特になし

4-1. オプション選択項目

本文中にオプション項目であることを記載する。

4-2. ナショナルマター項目

特になし

5. 参照した国際勧告との章立て構成の相違

本技術レポートは特定文書のダウンストリームに該当しないため記載しない。

6. 改版の履歴

版数	制定日	改版内容
第 1.0 版	2010 年 4 月 16 日	初版制定
第 1.1 版	2010 年 4 月 16 日	和文として追加制定（内容は 1.0 版と同等）

7. 工業所有権

本技術レポートに関わる「工業所有権等の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、TTC ホームページによる。

8. その他、利用者に有益な事項

本技術レポートにて参照している勧告、標準等は本文内のリファレンスにまとめられている。また、参照している勧告、標準、仕様書、技術レポートで TTC 標準、TTC 仕様書、TTC 技術レポートが制定されている場合、自動的に最新版 TTC 標準等で置き換えて参照するものとする。

9. 作成専門委員会

3GPP 専門委員会

本文書の記載が英語表記（1.0 版）における記載と異なる場合、日本語表記（1.1 版）を優先する。

## 1. スコープ (Scope)

本文書のスコープは、RCSS Presence NNI の視点から Presence アーキテクチャ内の関連要素およびレファレンス・ポイント間のやり取りを定義することである。対象のレファレンス・ポイントおよびインタフェースは RCSS Phase1 Stage2 Presence (TTC TR-1025) [1] で定義される。本文書で指定されるインタフェースは適用する OMA 仕様にしたがっており且つこれを参照する。その意図は、標準で定義されていない NNI 関連情報を定義することである。関連するユースケースは RCSS Phase1 Stage1 Presence (TTC TR-1024) [2] で定義される。

## 2. ファレンス (References)

[1] RCSS Phase1 Stage2 Presence (TTC TR-1025)

[2] RCSS Phase1 Stage1 Presence (TTC TR-1024)

[3] RCSS Phase1 Stage2&3 Common Function (TTC TR-1035)

[4] OMA Presence SIMPLE v1.1 Implementation Guidelines, OMA-RRELD-XDM\_PRS\_IMPL-V1\_0-20081209-A

[http://www.openmobilealliance.org/Technical/release\\_program/docs/XDM\\_PRS\\_IMPL/V1\\_0-20081209-A/OMA-RRELD-XDM\\_PRS\\_IMPL-V1\\_0-20081209-A.pdf](http://www.openmobilealliance.org/Technical/release_program/docs/XDM_PRS_IMPL/V1_0-20081209-A/OMA-RRELD-XDM_PRS_IMPL-V1_0-20081209-A.pdf)

[5] 3GPP Technical Specification 24.229

<http://www.3gpp.org/ftp/Specs/html-info/24229.htm>

[6] IETF RFC4479

<http://www.rfc-editor.org/rfc/rfc4479.txt>

[7] IETF RFC4482

<http://www.rfc-editor.org/rfc/rfc4482.txt>

[8] IETF RFC4480

<http://www.rfc-editor.org/rfc/rfc4480.txt>

[9] IETF RFC3863

<http://www.rfc-editor.org/rfc/rfc3863.txt>

[10] OMA Presence SIMPLE Data Specification, OMA-DDS-Presence\_Data\_Ext-V2\_0-20090929-A

[http://www.openmobilealliance.org/Technical/release\\_program/docs/PDE/V1\\_0-20090929-A/OMA-DDS-Presence\\_Data\\_Ext-V2\\_0-20090929-A.pdf](http://www.openmobilealliance.org/Technical/release_program/docs/PDE/V1_0-20090929-A/OMA-DDS-Presence_Data_Ext-V2_0-20090929-A.pdf)

[11] OMA Presence SIMPLE Specification, OMA-TS-Presence\_SIMPLE-V1\_1-20080627-A

[http://www.openmobilealliance.org/Technical/release\\_program/docs/PresenceSIMPLE/V1\\_1-20080627-A/OMA-TS-Presence\\_SIMPLE-V1\\_1-20080627-A.pdf](http://www.openmobilealliance.org/Technical/release_program/docs/PresenceSIMPLE/V1_1-20080627-A/OMA-TS-Presence_SIMPLE-V1_1-20080627-A.pdf)

[12] GSMA RCS Technical Realization Release 1 Document Version 1.1 31 August 2009。

## 3. 用語及び略語定義 (Terms and acronyms)

RCSS     **R**ich **C**ommunication **S**ystem and **S**ervice **G**uideline group

IP        **I**nternet **P**rotocol

NNI       **N**etwork to **N**etwork **I**nterface

OMA       **O**pen **M**obile **A**lliance

RLS       **R**esource **L**ist **S**erver

SIP        **S**ession **I**nitiation **P**rotocol

PS        **P**resence **S**erver

## 4. インタフェース仕様

### 4.1. アドレス指定

Presence サービス NNI は SIP および TELURI の両アドレスの使用をサポートしている。詳しくは RCSS Phase1 Stage2&3 Common Function (TTC TR-1035) [3]をご覧ください。NNI インタフェースには、使用した ID 用に 3GPP Technical Specification 24.229 [5] で定義している (P-Asserted-Identity) ID 情報を含める必要がある。与えられた ID 情報により着信側の Presence サーバ (PS) は watcher を識別し、有効な presence ポリシー (許可、ペンディング、ブロックなど) を適用することができる。含まれた P-Asserted-Identity 情報には、着信ネットワークが Presence Subscription の発信者を識別するために用いる URI を含めなければならない (詳しくは IETF RFC4479 [6] および OMA Presence SIMPLE Specification, OMA-TS-Presence\_SIMPLE-V1\_1-20080627-A [11] をご覧ください)。

RCSS Presence サービスは対称的認可 (symmetric authorization) をベースにしており、presentity も watcher も互いの presence 情報に subscribe しなければならない。したがって両方で用いられている ID と認可ルールが互いに合致していることが重要である。そうでないと認可シーケンスが失敗してしまうおそれがある。

### 4.2. イベント・パッケージ

Presence Watcher は Presence 情報にのみ subscribe できるので、使用するべきコンテンツのフォーマットも定義している IETF RFC4479 [6] で参照している適切な RFC にしたがって、リクエストは必要な presence イベント・パッケージを定義しなければならない。

この NNI 仕様は presence subscription のみを規定しており、list resource 用などの拡張は規定していない。

### 4.3. Presence データ・モデル

#### 4.3.1. 概要

以下の章で、RCSS Phase1 Stage1 Presence (TTC TR-1024) [2] の要件を満足させ、当 NNI 仕様を RCS に適合させるための Presence データ・モデルを解説する。

オペレータの presence 実装では、(エンドユーザ・アプリケーションで使用するデータによって) このデータ・モデルの全体もしくは選択された一部分に対応していることになる。したがって特定の情報のみをサポートさせるためには各オペレータの presence アプリケーションが柔軟である必要がある。すなわち Presence アプリケーションが不明なデータ要素を受信した場合には、サイレントにそれを破棄するべきである。

OMA Presence SIMPLE v1.1 Implementation Guidelines, OMA-RRELD-XDM\_PRS\_IMPL-V1\_0-20081209-A [4] にある Presence 情報要素のサイズ/長さに関する実装情報に従うべきである。規定のインタフェースは NNI インタフェースのみを表すものであり、オペレータ領域内にはさらに UE の制限がある可能性もある。そのような制限は、当該オペレータ領域内で指定する必要があり、本文書の取り扱い範囲外となる。

#### 4.3.2. Person

属性	仕様レファレンス	コメント
Person: <presence> -> <person>	IETF RFC4479 [6]	GSMA RCS Technical Realization Release 1 Document Version 1.1 31 August 2009 [12] の 4.2.2 章で定義されている。
Willingness: <person> -> <Overriding-Willingness> -> <basic> -> Open	OMA Presence SIMPLE Data Specification, OMA-DDS-Presence_Data_Ext-V2_0-20090929-A [10]	GSMA RCS Technical Realization Release 1 Document Version 1.1 31 August 2009 [12] の 4.2.2 章で定義されている。

属性	仕様レファレンス	コメント
Hyper available: Willingness combined with an "until" value with element basic->open	OMA Presence SIMPLE Data Specification, OMA-DDS-Presence_Data_Ext-V2_0-20090929-A [10]	HyperAvailability 情報は OMA Overriding-Willingness によって element basic -> open の "until" 値とともに搬送されるものである。"until" のない OMA Overriding-Willingness エレメントは HyperAvailability 情報とは解釈されない。  注: Hyper available は一時的な状態に過ぎず、このフィーチャの乱用を避けるためにこの状態の有効時間に関する制限を設けるべきである。
Favorite Link: <person> -> <homepage>	IETF RFC4482 [7]	GSMA RCS Technical Realization Release 1 Document Version 1.1 31 August 2009 [12] の 4.2.2 章で定義されている。
Note: <person> -> <note>	IETF RFC4479 [6]	GSMA RCS Technical Realization Release 1 Document Version 1.1 31 August 2009 [12] の 4.2.2 章で定義されている。
Timestamp: <person> -> <timestamp>	IETF RFC4479 [6]	GSMA RCS Technical Realization Release 1 Document Version 1.1 31 August 2009 [12] の 4.2.2 章で定義されている。
Activity Information: <person> -> <activities>	IETF RFC4480 [8]	Presentity が <activities> 状態を使って自身の現在の状態を特定できる。現在何を行っているかが列挙される。
Activity Note: <person> -> <activities> -> <note>	IETF RFC4480 [8]	現在の状態を解説する短い文字列。
Location Indication <person> -> <place-type>	IETF RFC4480 [8]	Presentity が <place-type> 状態エレメントを使って自身の位置を指定できる。「教室」や「家」など現在位置している場所の種類を報告できる。

属性	仕様レファレンス	コメント
Feeling/mood indication <person> -> <mood>	IETF RFC4480 [8]	<mood> 状態エレメントは自身のムードを示す。
Personal icon <person> -> <status-icon>	IETF RFC4480 [8]	<status-icon> エレメントは自身またはサービスの現在の状態を示す。<status-icon> エレメントには、現在の自身またはサービスの状態を表す画像（アイコン）をポイントする HTTP/S URI が含まれる。  注：サイズおよび画像フォーマットは当仕様の範囲外。

#### 4.3.3. サービス

属性	仕様レファレンス	
Tuple: <presence> -> <tuple>	IETF RFC3863 [9]	GSMA RCS Technical Realization Release 1 Document Version 1.1 31 August 2009 [12] の 4.2.3 章で定義されている。
Status <tuple> -> <status> -> <basic> -> Open	IETF RFC3863 [9]	GSMA RCS Technical Realization Release 1 Document Version 1.1 31 August 2009 [12] の 4.2.3 章で定義されている。
Service-id <tuple> -> <servicedescription> -> <serviceid>	OMA Presence SIMPLE Data Specification, OMA-DDS-Presence_Data_Ext-V2_0-20090929-A [10]	GSMA RCS Technical Realization Release 1 Document Version 1.1 31 August 2009 [12] の 4.2.3 章で定義されている。
Version <tuple> -> <servicedescription> -> <version>	OMA Presence SIMPLE Data Specification, OMA-DDS-Presence_Data_Ext-V2_0-20090929-A [10]	GSMA RCS Technical Realization Release 1 Document Version 1.1 31 August 2009 [12] の 4.2.3 章で定義されている。



Contact <tuple> -> <contact>	IETF RFC3863 [9]	GSMA RCS Technical Realization Release 1 Document Version 1.1 31 August 2009 [12] の 4.2.3 章で定義 されている。
Timestamp <tuple> -> <timestamp>	IETF RFC3863 [9]	GSMA RCS Technical Realization Release 1 Document Version 1.1 31 August 2009 [12] の 4.2.3 章で定義 されている。
<tuple> -> <willingness> -> <basic>	OMA Presence SIMPLE Data Specification, OMA-DDS-Presence_Data_Ext-V2_0-20090929-A [10]	サービスが利用可 能かどうかを示 す。サービス固有 の willingness を指 定するために使わ れる。

以下の各表は選択した RCS サービスの service-description を規定したものである。サービスはそれぞれに、上の表で規定した service エレメントを使用する。

Presence document には service エレメントをいくつでも含めることができ、受信側では不明なエレメントを受信した際にはこれを無視しなければならない。

注： サポートされているサービスおよびサービス ID は単なる参考であり、その管理および定義は本文書の規定範囲外となる。

サービス	バージョン	Service-id (参考)	Contact アドレス・タイプ
CS Video Call	1.0	org.3gpp.cs-videotelephony	TEL URI
Video Share	1.0	org.gsma.videoshare	TEL / SIP URI
Image Share	1.0	org.gsma.imageshare	TEL / SIP URI
Session Mode Messaging	1.0	org.openmobilealliance:IM-Session	TEL / SIP URI
File Transfer	1.0	org.openmobilealliance:File-Transfer	TEL / SIP URI
Content sharing	1.0	org.ttc.rcss:ContentSharing (要定義)	TEL / SIP URI
Push to talk	1.0	org.openmobilealliance:PoC-session	TEL / SIP URI

## 5. サービス動作

本項は presence サービスのユースケースに関して期待される NNI インタフェース動作を規定する。RCSS Phase1 Stage1 Presence (TTC TR-1024) [2]で規定された一般的な考え方は presence サービスが対称的な presence (symmetric presence) を使用するべきであるということである。これはすなわち、watcher が自分の contact list に presentity を追加した場合、その presentity も watcher の contact list に追加され自動的に initial watcher の presence 情報を watch できるよう許可されるべきであるということの意味している。同様に watcher のうちの 1 人がリストから相手を削除した場合、両端末から両者が削除されなければならない。

この部分では presence サービスのケースと、対称的 presence サービスを満足させるために規定しなければならない NNI 動作のみを解説している。他のケースにおいては、メッセージおよび content は OMA Presence SIMPLE Specification, OMA-TS-Presence\_SIMPLE-V1\_1-20080627-A [11]に適合させるものとする。

## 5.1. 対称的認可に関する動作

本項では、RCSS Phase1 Stage2 Presence (TTC TR-1025) [1]で定義した対照的認可 (symmetric authorization) を実現するために Presence サービスが実現しなければならない特定の動作を解説する。Presence システムの動作は Subscription-State ヘッダを使って制御される。Presence 情報更新など他のリストされていない動作は OMA Presence SIMPLE Specification, OMA-TS-Presence\_SIMPLE-V1\_1-20080627-A [11] にしたがって動作するべきである。

### 5.1.1. Presentityが新しいユーザを追加

下表は、contact list 内の 1 人に新たにユーザが追加された場合に NII インタフェースの各端がどのように動作するべきかを規定したものである。

認可状態	Presence サーバと Operator Presence の動作	RLS および Operator Presence サービスの動作
Add new user: Watcher により新たにユーザが追加	OMA Presence SIMPLE Specification, OMA-TS-Presence_SIMPLE-V1_1-20080627-A [11] にしたがって Subscription state=pending。  注：通常、システムはユーザに対して新たに入ってきた watcher のリクエストに関する情報を伝える。またシステムは認可時間を制限するためのタイマを開始させる場合もある (Time-out を参照)	追加されたユーザから入ってくる watcher リクエストを受け付けるためにシステムを更新する (追加ユーザの認可)。  どの contact を watch するべきかを指定する resource list にユーザを追加。  次の進捗を待機。
Ongoing authorization: 認可進行中に watcher から subscription を受信	OMA Presence SIMPLE Specification, OMA-TS-Presence_SIMPLE-V1_1-20080627-A [11] にしたがって Subscription state=pending。	アクションなし。次の進捗を待機。
Rejected: Watcher リクエスト拒否	OMA Presence SIMPLE Specification, OMA-TS-Presence_SIMPLE-V1_1-20080627-A [11] にしたがって、Subscription state=terminated reason=rejected	Watcher および authorization list から watcher を削除。  注：通常、拒否は一定期間有効となる。すなわち、その期間中、新たな subscription リクエストは拒否される。
Time-out: タイムアウトが発生。すなわち presentity から時間内に応答なし。	OMA Presence SIMPLE Specification, OMA-TS-Presence_SIMPLE-V1_1-20080627-A [11] にしたがって、Subscription state=terminated reason=giveup	Watcher および authorization list から watcher を削除。
Authorized: Presentity が watcher リクエストを認可	Watcher list および authorization list に watcher が追加されシーケンスが完了する。	シーケンス完了。

### 5.1.2. 既存ユーザの削除

状態	Presence サーバおよび Operator Presence の動作	RLS および Operator Presence サービスの動作
Remove user: 1 人のユーザが相手方を削除。	OMA Presence SIMPLE Specification, OMA-TS-Presence_SIMPLE-V1_1-20080627-A [11] にしたがって、Subscription state=terminated reason=rejected  削除されたユーザが watcher および authorization list から削除される。	追加ユーザの表の Rejected を参照ください。

### 5.1.3. IMSから削除されたユーザ

IMS システムから presentity が削除されることにより、このユーザを watcher および authorization list からユーザを削除するために当該 watcher が presence サービスを削除するトリガとなる。Presence サービス側は、ユーザが見つからないことを示す SIP エラー応答の受信か、もしくは state=terminated および reason=noresource という最終通知を受信により、このことを検出する。

#### 5.1.4. その他（参考）

番号ポータビリティは本文書の取り扱い範囲外であるが、本項では期待される動作を簡単に説明する。

オペレータの変更は、旧オペレータを削除して、既存または新しい ID で新しいオペレータをシステムに追加することになる。これにより以下 2 つの異なる動作が発生する。

- a) Watcher がオペレータの IMS システムから削除されたことを示すメッセージを受信。それにより Presence サーバとオペレータの Presence エンティティは 5.1.3 で規定した動作を行う。
- b) ユーザの ID が新しいオペレータに転送される。通常はこれにより、5.1.1 で規定した 2 つのユーザ間の新たな認可シーケンスが発生する。

### 6. 代表的なユースケース（参考）

主要な presence ユースケースの基本的なフローチャートを示す。この情報は NNI 関連の情報フローのみを取り扱っている。

#### 6.1. Presentity情報用のSubscribe

これは通常のユースケースで、両ユーザがすでにお互いに追加および受け付けられている場合である。

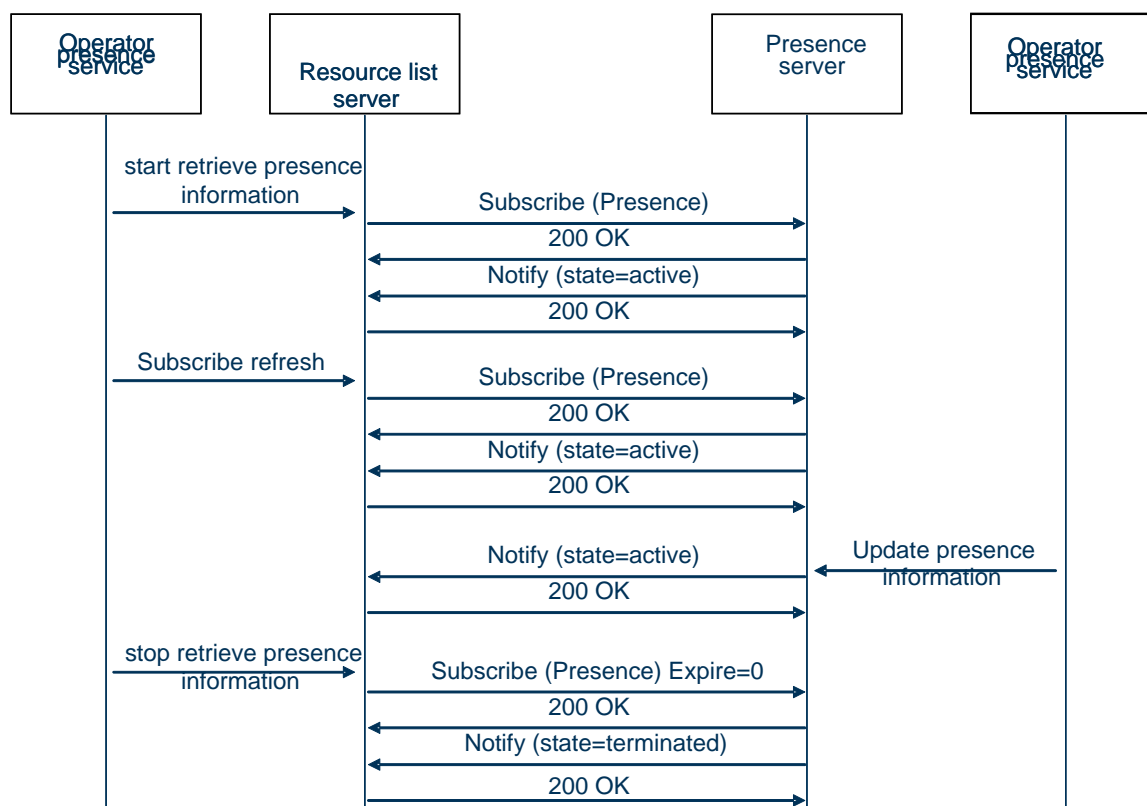


Figure 6-1/TX-10xy\_tmp: Presentity 情報用の Subscribe

#### 6.2. Presence listに新たにpresentityを追加（受け入れ）

このユースケースは watcher が presentity を追加し、そのリクエストがその presentity により受け入れられる場合を示している。

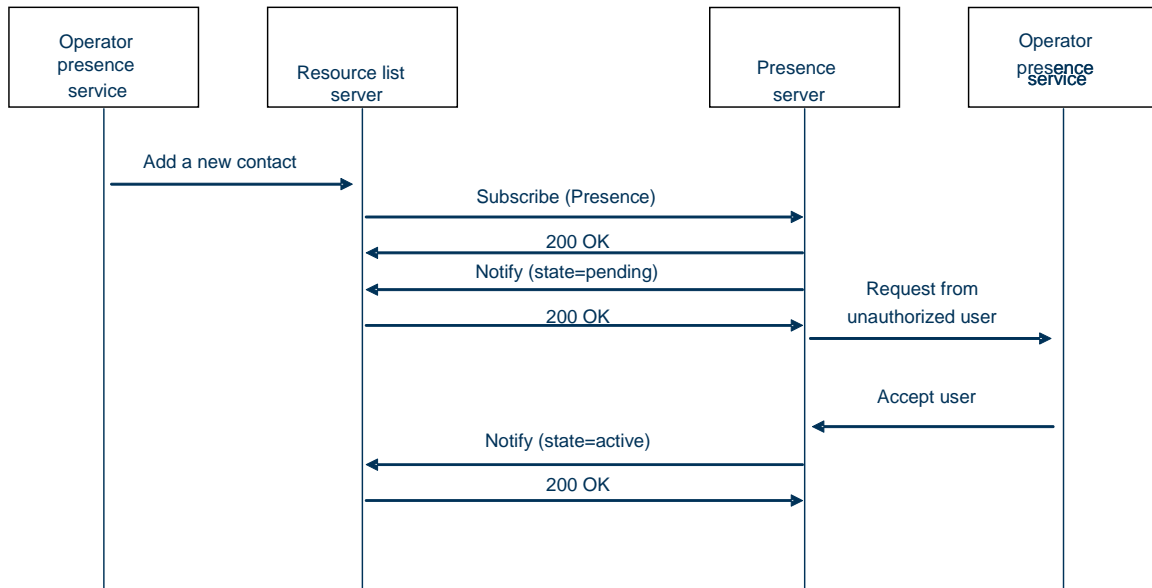


Figure 6-2/TX-10xy\_tmp: Presence list に新たに presenceity を追加 (受け入れ)

### 6.3. Presence listに新たにpresenceityを追加 (拒否)

このユースケースは、watcher が新しい presenceity を追加して、その presenceity がこのリクエストを拒否する場合を示している。

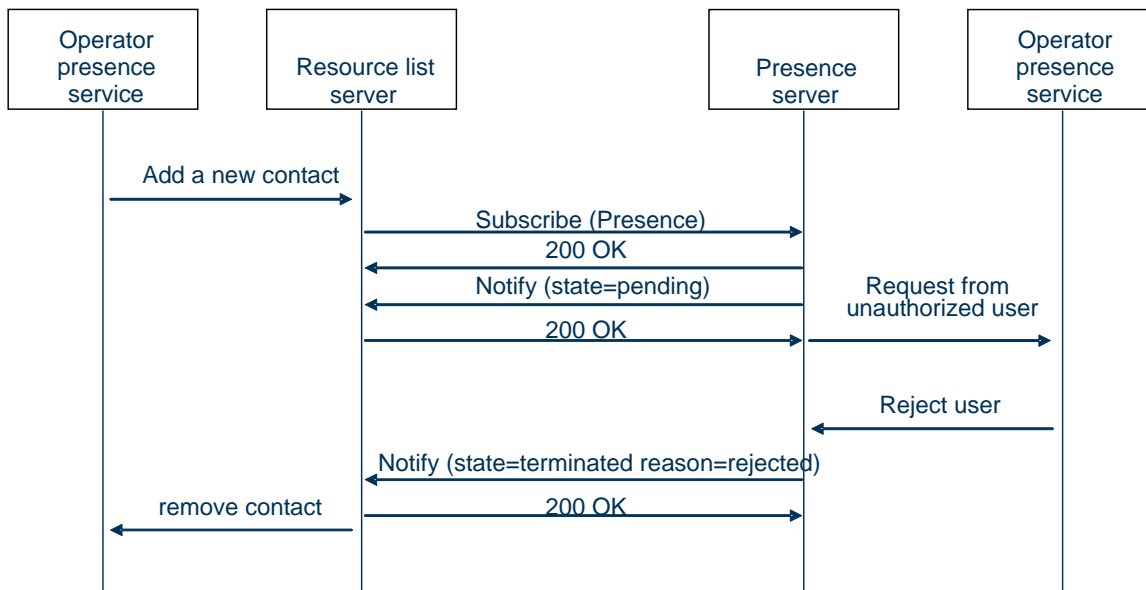


Figure 6-3/TX-10xy\_tmp: Presence list に新たに presenceity を追加 (拒否)

### 6.4. Presence listに新たにpresenceityを追加 (認可タイムアウト)

このユースケースは、watcher が presenceity を追加し、そのリクエストが規定された時間内に presenceity のネットワークにより認可されない場合を示している。

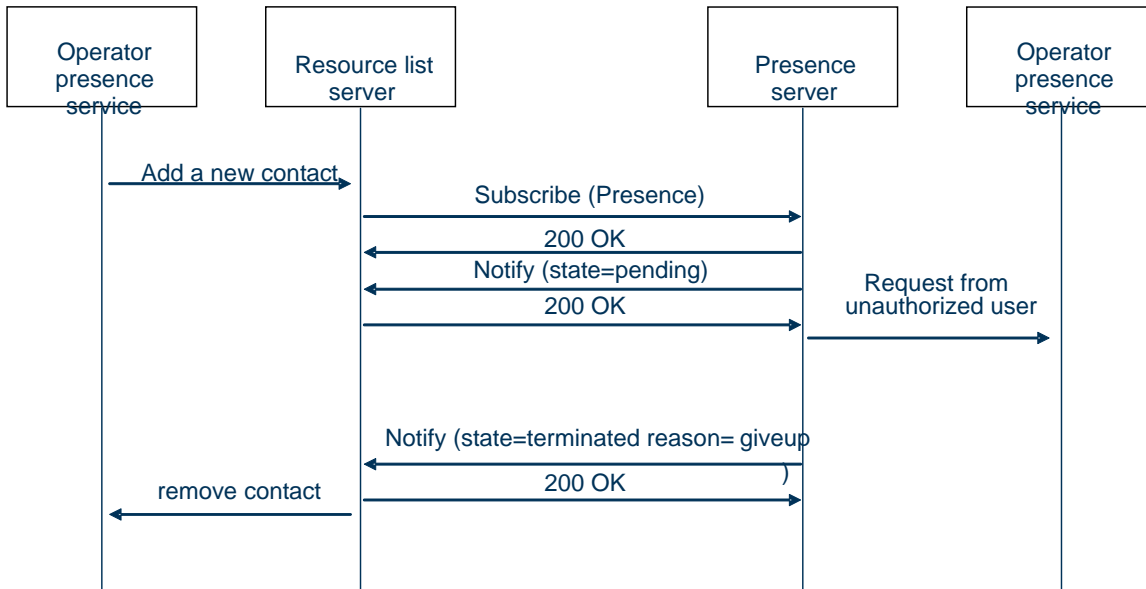


Figure 6-4/TX-10xy\_tmp: Presence list に新たに presenceity を追加 (認可タイムアウト)

### 6.5. 既存のpresence listからpresenceityを削除

このユースケースは、watcher が以前に追加あるいは許可した presenceity を削除する場合を示している。

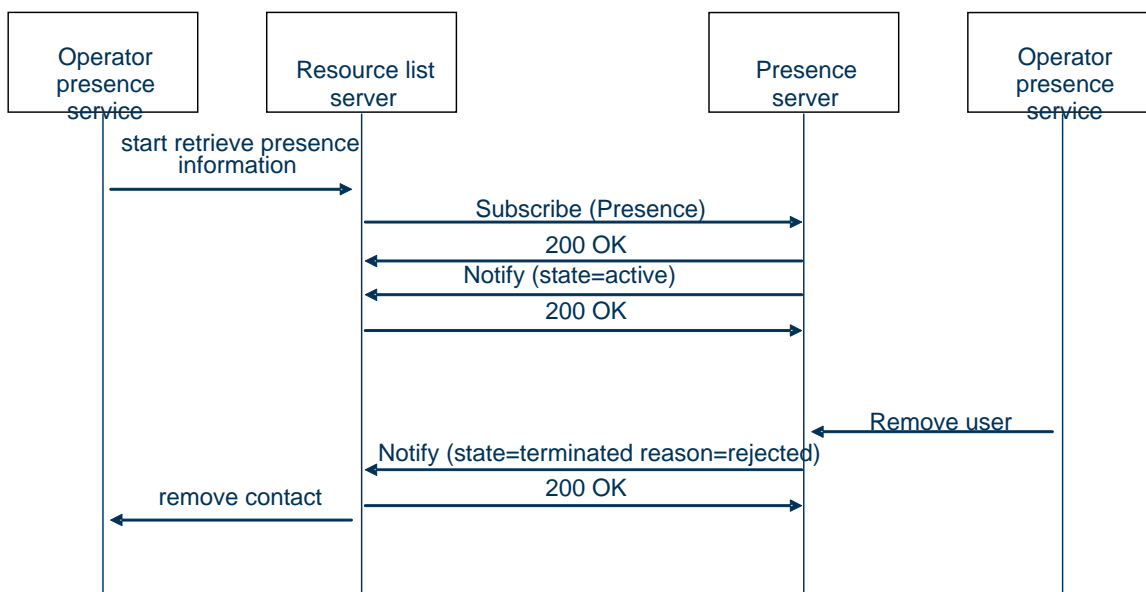


Figure 6-5/TX-10xy\_tmp: 既存の presence list から presenceity を削除

## 7. その他 (Others)

未定。

付録 A メッセージ例 (参考)

Presence document の例:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<presence xmlns="urn:ietf:params:xml:ns:pidf"
xmlns:op="urn:oma:xml:prs:pidf:oma-pres"
xmlns:opd="urn:oma:xml:pde:pidf:ext"
xmlns:pdm="urn:ietf:params:xml:ns:pidf:data-model"
xmlns:rpidd="urn:ietf:params:xml:ns:pidf:rpidd"
xmlns:lt="urn:ietf:params:xml:ns:location-type"
xmlns:c="urn:ietf:params:xml:ns:pidf:cipidd"
entity="sip:+1234578901@operator.com;user=phone">
<tuple id="a1">
<status><basic>open</basic></status>
<op:willingness opd:until="2009-03-28T22:20:00Z">
<op:basic>open</op:basic>
</op:willingness>
<op:service-description>
<op:service-id>org.3gpp.cs-videotelephony</op:service-id>
<op:version>1.0</op:version>
</op:service-description>
<contact>tel:+81803344455</contact>
<timestamp>2009-03-28T20:07:07Z</timestamp>
</tuple>
<tuple id="a12">
<status><basic>open</basic></status>
<op:willingness opd:until="2009-03-28T22:20:00Z">
<op:basic>open</op:basic>
</op:willingness>
<op:service-description>
<op:service-id>org.gsma.videoshare</op:service-id>
<op:version>1.0</op:version>
</op:service-description>
<contact>tel:+81803344455</contact>
<timestamp>2009-03-28T20:07:07Z</timestamp>
</tuple>
<tuple id="a123">
<status><basic>open</basic></status>
<op:willingness opd:until="2009-03-28T22:20:00Z">
```

```

<op:basic>open</op:basic>
</op:willingness>
<op:service-description>
<op:service-id>org.openmobilealliance:IM-Session</op:service-id>
<op:version>1.0</op:version>
</op:service-description>
<contact>tel:+81803344455</contact>
<timestamp>2009-03-28T20:07:07Z</timestamp>
</tuple>
<tuple id="a1234">
<status><basic>open</basic></status>
<op:willingness opd:until="2009-03-28T22:20:00Z">
<op:basic>open</op:basic>
</op:willingness>
<op:service-description>
<op:service-id>org.ttc.rcss:ContentSharing</op:service-id>
<op:version>1.0</op:version>
</op:service-description>
<contact>tel:+81803344455</contact>
<timestamp>2009-03-28T20:07:07Z</timestamp>
</tuple>
<tuple id="a12345">
<status><basic>open</basic></status>
<op:willingness opd:until="2009-03-28T22:20:00Z">
<op:basic>open</op:basic>
</op:willingness>
<op:service-description>
<op:service-id>org.openmobilealliance:PoC-session</op:service-id>
<op:version>1.0</op:version>
</op:service-description>
<contact>tel:+81803344455</contact>
<timestamp>2009-03-28T20:07:07Z</timestamp>
</tuple>
<pdm:person id="a1233">
<op:overriding-willingness opd:until="2009-03-28T21:00:00Z">
<op:basic>open</op:basic>
</op:overriding-willingness>
<rpид:activities>
<rpид:meeting/>
<rpид:note>important</rpид:note>
</rpид:activities>

```

```
<rpid:place-type until="2009-03-28T23:59:00Z"> <lt:office/> </rpid:place-type>
<rpid:mood> <rpid:happy/> </rpid:mood>
<rpid:status-icon>http://www.example.com/prescontent/examplepic.png </rpid:status-icon>
<c:homepage>http://www.example.com/aliceHome/</c:homepage>
<pdm:note>I'll be in Tokyo</pdm:note>
<pdm:timestamp>2009-03-28T20:07:07Z</pdm:timestamp>
</pdm:person>
</presence>
```

#### 付録 B RCSS の RCS からの差分

現行のバージョンには、以下に示すような RCS との差分がある：

1. この document では NNI 部分だけを対象としている（XDMS 仕様、UE の動作等は含まない。） 注： これは各仕様の範囲からの差分で、NNI の観点からの差分とみなすべきではない。
2. Presence データ・モデルの person 部分に以下の差分がある：
  - a. Personal Icon の属性は <person> -> <status-icon> を用いて含まれており、これは RCS と同じ属性となる。しかしながら、RCSS 仕様では標準の HTTP URI を規定しており、RCS では XCAP レファレンスを使用している。 注： XCAP 属性を用いた RCS Icon を含めるには、XDMS NNI のインタワーキングの仕様が必要。
  - b. Activity 情報が追加されている。
  - c. Activity Note が追加されている。
  - d. Location Indication が追加されている。
  - e. Feeling/mood Indication が追加されている。
3. Presence データ・モデルの tuple 部分に以下の差分がある：
  - a. サービス固有の willingness の仕様を認めるため willingness が追加されている。
4. Service と Service ID のマッピングはまだ最終的にまとまっていない。しかしながら、TTC-RCSS のマッピングと GSMA-RCS のものとは差分が発生する。

—以上—